

令和3年度学校関係者評価

吉川中学校

1 教育課程について ～授業力の向上「学びあう授業」～

- 計
画
- ① より豊かな教育の推進のための小中一貫教育の研究の推進を行う。
 - ② 主体的・対話的で深い学びを育む授業の研究（班学習の研究を中心に）を進める。
 - ③ 学力の向上に努めるため、配置された加配教員（数2、英1）を最大限活用し、数学科と英語科の習熟度別指導の実施率を50%以上とする。
 - ④ 支援教育、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。
 - ⑤ 目標に準拠した評価のあり方を研究し、生徒の意欲を高める指導と評価の一体化を進める。

- 取
組
- ① 今年度も、新1年生の体験入学は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、生徒会の生徒との交流をなくすなど工夫して実施することができた。また、新1年生保護者対象入学説明会も健康調査の徹底など保護者の協力を得て実施することができた。町教委主催で行われた「豊能町児童会・生徒会交流会」はオンラインで短時間の開催であったが、大変有意義な取り組みとなった。そして、生徒の「自尊感情」の高揚を年度途中で本校の最大の課題ととらえ、校区小学校とも連携をしながら、課題克服に向け、保護者への発信も積極的に実施した。
 - ② 『「意欲を育て、主体的に学ぶ授業の研究と実践」～わかる授業の創造から～』を今年度も重点目標に掲げ、大阪府教育委員会指定「スクール・エンパワーメント（SE）推進事業」（3年目）を受け研究を進めた。具体的には、校内研修推進委員会（管理職、首席、こども支援コーディネーター、本事業担当者、校内研修担当者）を毎週定期的に開催した。今年度は、相互参観授業週間を年間3回、全教員を7つに分けた小グループによる校内研究授業を7回実施することができた。特に今年度はグループごとに授業における「こだわりポイント」を設定し、わかる授業づくりの改善に注力した。加えて、相互授業参観での教職員間の授業参観回数を増やすための工夫も、SE担当教員が中心となり行った。
 - ③ 今年度も数学（2名）と英語（1名）の加配教員を府より配置いただき、生徒の実態に応じて習熟度別分割指導やTT授業（2人体制での授業）を実施した。しかし、5月に英語教員（常勤講師）1名が急に退職となり、その後補充がされなかったため、英語科については当初の予定通りには実施できなかった。数学科は全学年で、英語科については3学期を中心に全時間ではなかったが、1、2年生でできる限り実施した。数学科においては15%のTT授業、85%の習熟度別指導となった。
 - ④ 今年度、支援学級は4クラスとなった。指導については、保護者との連携を大切にし、保護者会の実施や支援学級の懇談会などを持った。生徒については、各行事（宿泊学習、体育大会、校外学習等）などの前には関係する教職員で配慮事項について情報を共有した。また、来年度入学・支援学級入級予定の児童の様子については、例年なら全教職員での参観を実施しているが、今年度はコロナ対応として、小学校への訪問人数を減らし、支援担当教員のみが3小学校へ授業参観に行き一人ひとりの児童の様子を把握するよう努めた。また、毎週定期的に支援教育に携わる教員で担当者会を開催し、生徒のようすや今後の指導についてなど確認を行いながら進めた。今年度は昨年に引き続き大阪府立豊中支援学校のリーディングスタッフによる学校支援も受けた。
 - ⑤ 今年度より学習指導要領が新しくなり、評価の観点が変更となった。昨年度中に評価の在り方や通知票の項目の検討などを行っていたので、大きな混乱はなく実施できた。今後は教科間で評価活動の交流をし、より生徒の意欲に結び付く評価の在り方の研究が必要と感じた。

評

<学校教育自己診断アンケートを4段階（A：当てはまる、B：やや当てはまる、C：あまり当てはまらない、D：当てはまらない）で生徒と保護者に実施した結果、どの項目も毎年肯定的評価（A+B）が、ほぼ90%以上を占めているので、積極的肯定（A）評価で比較検討した。>

○生徒の評価 ※（H31年度、R2年度、**R3年度**）の肯定(A)評価の割合

R3年度学校教育自己診断の授業に関する項目の結果によると「好きな授業がある」（69.1% **66.7%** **73.8%**）「授業をわかりやすくしようとしている」（63.6% **70.3%** **69.5%**）「少人数授業は分かりやすい」（66.5% **75.9%** **69.5%**）「朝の読書は落ち着いて読書のできる時間」（61.7% **57.7%** **59.6%**）であり、若干変動はあるが、概ね良好な結果である。今年度は英語科で少人数指導が難しかったのが、少人数指導に関する生徒の評価が低下した要因だと考える。次年度は体制を整え、少人数指導を充実させていきたい。

| | |
|--|---|
| <p>価</p> | <p>○保護者の評価 「支援教育の充実に努めている」(38.6% 37.8% 40.4%)「少人数授業、きめ細やかな指導、分かりやすい授業の工夫・研究」(42.1% 36.7% 44.3%)「放課後まなび舎教室・家庭学習計画表・補習などを通じて自学自習力の向上に努めている」(35.4% 37.0% 36.3%)「読書活動に力を入れている」(42.6% 30.8% 38.2%)であった。保護者の方からの評価も上昇しているものが多い。学校からの取組みを発信している成果も出ているととらえたい。</p> <p>○総括的 今年度もコロナ対策を講じながらの教育活動であったが、授業においてはペア学習やグループ学習に配慮を要する状況が続いた。しかし、教職員はその状況においても、授業力向上に向け、また「学びあう授業」の創造に向け、工夫を凝らし、相互授業参観やグループでの研究に前向きに取り組んだ。その成果として、生徒や保護者からも良好な評価結果を得た。</p> <p>生徒が全体的に落ち着いた雰囲気の中で日々の学校生活を送っているため、授業においても前向きに学ぶ雰囲気はできている。しかし、授業の進め方や授業規律等の面で、学校全体としての統一感には欠ける。統一させることが特に重要というわけではないが、生徒が、教科が変わっても学年が変わっても安心して授業が受けられるよう、今後は学校としての「授業スタンダード」の確立に向けて努力したい。</p> <p>また、評価についても、教科の枠を超えて、一年間の評価活動を振り返る機会を持ち、生徒の意欲につながる評価活動になるように研究を進めたい。</p> |
| <p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p> | <p>○ 小中一貫教育に向けての取組みでは、コロナ渦の中でも創意工夫し実施された事は非常に良いことだと思います。</p> <p>○ 「児童会・生徒会交流会」がオンラインで開催されたことは、小学校と中学校の連携や児童・生徒の自覚を促す意味でも大変よかったですと思います。</p> <p>生徒の自尊感情の高揚に小学校と連携して取り組んでいることについて、吉中校区に育つ子どもの未来が楽しみに思えます。折に触れ学校長が取り組みを口にされることで、教職員や生徒にも意識が広がっていると感じます。保護者にも発信することで、家庭での生徒への接し方にもよい影響が出るといいなと思います。</p> <p>○ グループ学習などでわかる授業への取組みは大いに評価できます。</p> <p>読書活動は少ないように感じます。新聞離れや教科書以外の書物を読む機会が減っている昨今、せめて学校で読書時間を確保できればと思います。読解力を身につけるためにも読むことは必要です。</p> <p>○ 生徒の評価で、「好きな授業がある」の質問に対して、積極的な肯定評価が(69.1% 66.7%73.8%)と大きく増加したことは、大変評価できることだと思います。また、保護者評価で、「少人数授業、きめ細やかな指導、分かりやすい授業の工夫・研究」が (42.1% 36.7% 44.3%)と昨年度より8ポイント近く増加していることも、大変評価できます。</p> <p>○ 小グループによる校内研究授業を7回実施した成果や、どんなこだわりポイントを設定したのかなどをホームページや学校便りなどでもっと発信してもよいのではないのでしょうか。</p> |

2 生徒指導について ～寄り添う指導をとおして集団づくり「高めあう学校」～

| | |
|--------|--|
| 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の生活の原点を見据えた指導を行う。 ② いじめを許さない集団づくりをめざす。 ③ 学校での生活環境を整える。 ④ 不登校0、いじめ早期発見、早期解決をめざす。 ⑤ 部活動の指導では、明確な目標を設定し、指導を行う。 ⑥ 生徒会役員と学校協議会や PTA 役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。 ⑦ 生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。 |
| 取 組 | <ul style="list-style-type: none"> ① 今年度も、毎朝の出欠状況を把握する為に、生徒の出席状況を全教職員が確認できるように黒板に一覧表を作成し記入する方式を取った。遅刻傾向のある生徒や休みがちな生徒への対応を迅速に行うことができた。学校全体での情報共有の場としては、毎週1回、各学年の担当者、こども支援コーディネーター、養護教諭、栄養教諭、スクールカウンセラー、管理職で、学年の状況について、情報を共有する場(学年生徒指導連絡会)を持った。また、必要な場合には、専門職(スクールカウンセラー等)を招聘しケース会議を行った。今年度は、家庭支援を担当するスクールソーシャルワーカーとも連携し、ケース会議を実施したり、保護者との面談を行ったりした。不登校傾向の生徒では、町の適応指導教室や校内のカウンセリングルーム、さらには外部機関との連携も行った。しかし、池田子ども家庭センターとの連携を図ったが、学校が期待する動きを取ってもらうことは難しかった。加えて、保護者との連携においては、丁寧さはいるものの、一歩踏み込んだ指導の弱さを感じた一年であった。今後の課題である。 来年度に向けて、制服の見直しを行った。そして、女子の制服で来年度よりスカートの代わりにスラックスを選べるように校則の変更を行うことにした。 ② 今年度は、授業時数の確保やコロナ対応のため、限られた中での実施であったが、道徳・総合・学活などを通じて、体験を重視し、より生徒が主体的に取り組めるよう行事を工夫し、自尊感情や自己有用感が高まるようにした。実施にあたっては、生徒から実行委員を募り、生徒のアイデアを取り入れたり、運営を任せたりするなど、コロナ対応も含めて工夫して実施した。また、状況把握については、学期ごとに生徒に生活アンケートを実施し、いじめや体罰も含めて把握に努めた。そして、今年度は生徒の「自尊感情」の高揚を課題に打ち出した中で、生徒会が「サンクスツリー」の取り組みなど、自分たちの自尊感情、自己有用感が高まるような取り組みを考え、教職員も巻き込んで実施できたのは大きな収穫であった。 ③ 今年度は、コロナ対応のため PTA 行事など中止にしたものも多かったため、清掃活動については充分行えなかった面がある。しかし、校舎内の消毒作業については、教職員が担当教室や教具などの消毒も行ったが、今年度は町から派遣されたシルバー人材にもお世話になることができた。また、今年度も校舎のあらゆるところにアルコールによる手指の消毒液を配置し、手洗いや手指の消毒の習慣化を図る取り組みを行った。そして全教職員による施設の安全点検を7月、11月、2月に実施し、整備が必要な箇所については、教育委員会に要望を行った。 ④ 生徒の状況を共有するための学年代表等による連絡会を毎週実施した。特にいじめに発展すると考えられる事案の共有や早期解決に向けた検討などを中心に行った。校内の全体の様子は、こども支援コーディネーターが把握し、必要に応じて学年・担任への支援を行った。いじめ事案は数値的には昨年度より減っている。また、こども支援コーディネーターは、教室に入りにくい状況になった生徒が学習したり、相談したりできるカウンセリングルームを運営し、個に応じた居場所として活用した。また、町の適応指導教室(西公民館)等との連携も行い生徒の状況に応じた居場所づくりを行った。しかし、不登校の数については、横ばいからやや増加傾向である。こども支援コーディネーターはたいへん細やかに対応してくれたが、生徒指導主事や学年生徒指導担当との連携など、学校全体の生徒指導体制の面では、強化や改善の必要性を感じる部分もあった。 ⑤ 年度初めに、キャプテン会議を経て学校の方針を伝え、それをもとに各クラブミーティングを行い、活動目標や方針を明確にした。クラブ活動の活性化のために、他校と合同練習(野球部、陸上部)や練習試合を定期的にするなど活動の幅を広げた。しかし、今年度は、他校との交流や練習時間の制約などコロ |

| | |
|----------------|--|
| | <p>ナ対応による影響も大きく、十分な活動時間の確保には至っていない。昨年度に比べると活動時間は増えたと思われるが、生徒にとっては不完全燃焼な部活動と言わざるを得ない。働き方改革が言われる中、教職員の負担は増やしたくないが、部活動で生徒が活躍する場面を増やす意味でも、教職員の部活指導への意欲向上に向けても、やや課題を残した。</p> <p>⑥ 12月に後期生徒会役員と学校協議会委員及びPTA役員との交流会を持ち、生徒が自分の考えを発表した後、意見交換を行った。生徒会活動の活性化を目的としているが、中学生が、新学校建設に向けての後輩への気遣いや、勉強と趣味の両立について、また結婚観や意欲的な生き方についてなど、さまざまなことに興味関心を持っていることが分かったし、協議員と活発な議論ができ、有意義な取り組みとなった。</p> <p>⑦ 今年度はコロナ対応のため従来のような行事は行えなかった。体育大会は、生徒の接触する競技を取りやめ半日での実施とした。合唱発表会は飛沫感染防止のため中止した。3年生修学旅行は、今年度も信州方面に変更し、7月に実施した。地域の就学前施設での保育体験学習は何とか2学期に実施でき、生徒たちは貴重な体験ができた。2年生では宿泊学習（滋賀方面）は実施できたが、職場体験学習（3日間）は今年度も中止した。それに代わって、地域の事業所から職員の方々を招き、聞き取り学習を実施することができ、働くことの意味を深く学ぶことができた。1年生では校外学習の行き先を今年度も六甲山方面にして実施した。福祉体験学習（車椅子バスケット体験）は、府立障がい者交流促進センターファインプラザ大阪より講師を招聘し実施した。1年生が3年生になったときの修学旅行については、今のところ沖縄方面で実施したいと考えている。</p> |
| <p>評 価</p> | <p>○生徒の評価 ※（H31年度、R2年度、R3年度）の肯定(A)評価の割合 「学校へ行くのが楽しい」(59.5% 61.7% 57.7%)「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(53.1% 60.4% 54.4%)「あいさつはできていると思う」(52.1% 58.4% 56.3%)「命の大切さ、社会のルールの大切さ、人権の大切さについて学んだり考えたりするように指導している」(66.0% 70.3% 67.1%)「いじめや悩みや困っていることに対応しようとしている」(64.0% 65.3% 64.2%)であった。昨年度に比べるとやや下がってはいるが、概ね良好と考える。ただ、「学校に行くは楽しい」は肯定(B)評価まで加えると約90%と昨年度と変わらない高い評価なのだが、「楽しい」と答える生徒の割合をもっと増やしたいと考える。</p> <p>また、「将来の夢や目標を持っている」(50.2% 47.3% 47.6%)「人の役に立てる人間になりたい」(72.8% 76.9% 73.8%)「先生は将来の夢や目標について考える機会をつくっている」(47.9% 50.5% 50.9)と、自尊感情にかかわる質問についても昨年度までと大きな変わりがない。この部分は、今後大きく伸びるようにしたい。</p> <p>○保護者の評価 「学校へ行くのが楽しいと言っている」(52.7% 53.0% 51.7%)「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(37.4% 40.4% 40.6%)「命、社会のルール、人権の大切さについての指導を行っている」(41.7% 40.0% 32.6%)「いじめなど困っていることに耳を傾け対応している」(37.9% 34.1% 34.8%)であった。生徒の評価と同様に、「学校に行くのが楽しいと言っている」の数値がもっと伸びるようにしなければならない。「命、社会のルール、人権の大切さの指導」が大きく下がっている。真摯に受け止めたいと考える。</p> <p>○総括的 不登校の生徒が増える傾向にある。コロナも影響しているかもしれないが、学校として、もう少し早期の対応や踏み込んだ指導など、これまで以上に細やかな対応が必要と感じている。生徒の自尊感情の高揚は、今後の本校の大きな課題である。今年度から様々な取組みをスタートさせているが、今後に向けても引き続き、生徒が活躍する場を増やし、生徒会中心に自分たちで学校生活をよりよくする取組みなどを考えさせ、自信を積み上げさせたいと考えている。</p> <p>保護者への取組みの発信の重要性を、これらの評価を通じても感じた。コロナ禍で、授業参観を減らしたり、行事を縮小したりしている中で、日常の取組みや生徒の頑張りを、より積極的に発信する必要性を感じている。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p> | <p>○ 画一的な指導ではなく時代に即した柔軟な指導を心がけて欲しい。</p> <p>○ 取組① 制服の見直しについて、校則を変更して柔軟な対応をとられたことは、少しでも時代を反映する姿勢としてよい評価につながるように思います。新しいスタイルで通学する生徒が出てきたときの学校の指導が大切になると思うので、期待しています。</p> <p>取組⑤ 学校内での部活動を通じて生徒はずいぶん成長すると感じます。指導される教員の言葉がけや態度は生徒にストレートに影響するように思います。学校外から見える生徒の様子が規律正しく、はつらつとしていることは中学校の誇りだと先生方にも意識してほしいと思います。</p> <p>取組⑦ 生徒会役員が積極的に活動できるよう教員からのサポートがあることが好ましく思います。地域に向けた活動や、地域と一体となった活動など、生徒たちの新しい発想も取り入れて取り組めるよう応援したいと思います。</p> <p>○ 制服の選択ができる改革は、人権尊重の意味からも素晴らしい一歩と感じました。不登校の生徒には、踏み込んだ対策や対応を望みます。</p> <p>○ PTA としてクリーン作戦の実施ができなかったのは残念でした。</p> <p>○ 生徒会役員と学校協議会委員及び PTA 役員との交流会において、生徒会役員の言葉に大変いい刺激を受けました。1 年間の PTA 活動の中で一番記憶に残っています。将来の小中一貫校の工事における騒音について、勉強するうえで周りの音が気になることや勉強と趣味の両立についてなど、真剣に勉強のことを考えていることに感心させられました。</p> <p>生徒の意見が町に通った例もたくさんあることを生徒たちに伝えてほしいと思います。</p> <p>○ 不登校生徒に対する取り組みの一つとして、一人 1 台のタブレットを利用した取り組みを考えてみることも始めてはどうか。</p> |
|--|--|

3 学校の危機管理について - 報告・連絡・相談・点検の徹底

| | |
|--------|--|
| 計 画 | <p>① コンプライアンスの徹底を図る</p> <p>② 学校の事故防止のため、日常の安全点検、報告・連絡・相談を行う。</p> <p>③ 学校情報の透明化を図り、積極的な発信に努める。</p> <p>④ 学校文書、公金、諸経費等は、複数の担当で管理・点検を行い、PTA や教育委員会の監査を受ける。</p> <p>⑤ 生徒・保護者・地域への学校ルールの指導と統一と徹底を図る。</p> |
| 取 組 | <p>① 教育公務員としてのコンプライアンスについては、年度初めに「めざす教員像」を提示するとともに、定期的に職員会議等で指導した。特に、今年度はコロナ対応について安全安心な学校運営を第1優先とし、マスクの着用、手指の消毒・手洗いの徹底、3密の回避、さらには、私生活においても教員としての意識を持って感染予防に努めることを強く求めた。学校では、毎朝の健康状態の把握のため、検温と体調管理表への記入を求めた。また、生徒の健康管理も徹底し、学校行事については、感染防止の観点ですべてを見直した。その結果、合唱発表会を中止としたが、修学旅行は行き先の変更（今年度も沖縄を信州方面に変更）、体育大会は種目数を減らして半日開催など、生徒の行事は削減することなく工夫して実施する方向で実施に向けて取り組んだ。</p> <p>② 校内の安全点検は、年3回教員による全校一斉点検と日常の清掃時間での点検を行い、工事等の必要な危険箇所については、教育委員会に依頼した。学校や地域等で発生した事案については、学年生徒指導連絡会を月曜日の5限に設定し、全教員で情報共有を行い、必要な場合は町教委や豊能警察と連携し対応を行った。地震及び火災への対応については、年2回の避難訓練を実施した。</p> <p>③ 「学校だより」「学年だより」「学級通信」「進路通信」「保健だより」「図書だより」「食育だより」などを発行した。今年度もコロナ対応のため、学校行事、PTA 行事、クラブ活動など、さまざまな点で急な変更があった。そのため、教育委員会に要望し、町内で共通する変更点（授業日の変更、コロナによる出席停止等）については、教育委員会より文書を出していただいた。また、保護者の方にも協力を求めるため、学校のコロナ対策などを周知するように努めた。</p> <p>今年度は情報の積極的な発信に努めるため、「学校だより」を月2回の発行に増やし、加えてホームページのリニューアルを行った。見やすいホームページを心がけ、「学校長より」のコーナーを作り、保護者に学校とともに考えてもらいたい課題などを発信した。</p> <p>④ 学校文書、公金、諸経費については、管理職の許可のもとで取り扱っている。さらに毎年、町教育委員会の監査を受け、改善点等の指導を受けている。また、2月には町監査委員から監査を受けている。さらに、保護者からの徴収金については、3月にPTA 会長による監査を受ける。個人情報の管理については、持ち出しを禁止し、やむを得ず持ち出すときには管理職に許可を得ることとしている。</p> <p>⑤ 生徒指導関係のルールについては、「生徒指導マニュアル」（教員用）を毎年作成し、教員間で指導の相違が無いように共通確認を行っている。例年行っている3小学校区の青少年育成協議会との連携については、今年度もコロナ対応のためいくつかの行事が中止となり、充分行えなかった。</p> |
| 評 価 | <p>○生徒の評価 ※（H31年度、R2年度、R3年度）の肯定(A)評価の割合</p> <p>「学校は『学校だより』等通じて情報を発信している」（69.0% 67.8% 70.8%）「『学校だより』等を読んでいる」（32.2% 29.0% 26.6%）「給食は適切に実施されている」（39.3% 43.9% 42.9%）であった。「学校だより」には、学校の行事や取り組みなどを紹介するなど生徒が関心を持つよう取り組んだ。そして今年度は昨年度まで月1回の発行を月2回に増やした。その成果もあったのか、「発信している」の評価は上がったが、「読んでいる」の評価が下がったのが残念である。もっと読みやすい工夫も必要と感じている。給食については、生徒会と連携し、パン給食を増やしてほしいなどの意見を給食会社に伝えメニューの工夫を行ったり、栄養士を中心に食育推進に継続して取り組んできたりした成果によりまずまずの評価であるが、今後も生徒にとってより良い給食となるよう取り組んでいくことが大切と考える。今年度もコロナの影響により生徒会による給食工場の見学は実施できなかったが、給食業者との交流会を実施し、また栄養士と生徒会が協力して、食育の動画を作成し、各学級で視聴した。</p> <p>○保護者の評価</p> <p>「学校は教育方針や活動を分かりやすく伝えている」（36.9% 38.4% 41.0%）「学校は情報発信や連絡・情報提供を行っている」（56.0% 59.4% 60.1%）「子どもを通じて情報は保護者に届いている」（47.9%</p> |

44.2% **53.5%**)「給食は適切に実施されている」(24.2% 30.7% **39.8%**)「施設・設備の安全管理を適切に行っている」(31.7% 27.3% **30.0%**)「生徒の健康管理に努めようとしている」(39.3% 46.8% **28.0%**)であった。今年度、学校だよりやHPをはじめ、学校からの情報発信には注力したので、保護者にはそのあたりが高く評価いただいている。また、これまで大きな課題であった給食については、保護者の意識がかなり変わってきているように感じる。適切に実施していると答えてくださった保護者の方がかなり増えてきている。今年度もコロナ対応のため健康観察で体温チェックやチェックシートの記入などいねいに行った。また、例年通りの学校運営ではなかったため、情報発信には注意をして行き、学校だよりの配布や急な連絡事項など、さらには、PTA 関係の連絡にもメール配信を利用して行うようにした。しかし、「生徒の健康管理」に関しては、評価が下がってしまった。

○総括的

今年度は情報発信の機会を増やすと同時に、学校の課題を提示し、保護者にも一緒に考えてもらえるような発信も行った。また、「笑顔で会える学校」や「自律」「思いやり」など、生徒や保護者、また教職員も意識してほしいことをしつこいくらいに連呼し、発信した。少しずつではあるが浸透してきていると感じている。学校の取組みには保護者の方から概ね高い評価をいただいているが、「健康管理」の面では、反省すべき結果となった。特にコロナ禍という中で、保護者の方々の不安を取り除くまでの取組みができていないと反省する。取組みの発信が足りなかったのかもしれない。今後の課題としたい。

給食に関しては、生徒会を中心に、生徒の取組みも積極的になり、徐々に生徒の意識が変わってきていると同時に、その生徒の取組みをできる限り発信したこともあってか、保護者の評価がかなり高くなった。給食に対する不満の声が大幅に減ってきているように感じる。給食業者も生徒の意見を参考に、盛り付けに工夫をしたり、栄養士とも相談してセレクトメニューの実施等も前向きに取り組んでくれている。

学校施設については、老朽化の影響で様々なところで修理修繕が必要となっている。今後も安全を第一に教育委員会と協議を進めていきたい。

個人情報については、持ち出しを禁止している。持ち出さなければならないときには、管理職に報告し事前に承認を得ることとしている。

○ 校内での事件、事故等には迅速な対応が出来る様ですが、情報発信をできる範囲で外部にも発信して欲しいです。

○ 取組③

ホームページのリニューアルは、保護者への情報提供の機会を増やすことにつながりよかったと思います。

給食への評価の改善は、学校や教育委員会の努力の成果であると思います。栄養面や衛生面などいろいろなことに手を尽くして提供されているということに対して、保護者の方の理解が進むことや、感謝の心を持って「いただく」という食に対する基本的なことを家庭の中でも伝える子育てをしてもらえることにつながればと思います。

学校では、体調などの利用以外で出された食べ物を残すことは、“かっこわるい” くらいの雰囲気になればいいなと思います。

○ 「学校だより」をあまり読まれてないのは非常に残念です。

体験した事や行事の感想など生徒の声を掲載するのはどうでしょうか？ (例えば 談: AA さんのように)。少し関心を持ってもらえるのではと思います。

給食については永遠の課題ですね。献立の好き嫌いもあると思いますが、まず美味しいかどうかだと思います。

○ 「学校だより」を月 2 回発行されたことやホームページによる情報発信など積極的に取り組む姿勢がよくわかります。

さらなる情報提供として、保護者へのメール発信などをより積極的に活用することなどを考えられたらと思います。

学
校
協
議
会
委
員
評
価

| | |
|--|--|
| 4 本校の将来像と信頼される学校づくりについて - 生徒の意欲と自主的行動力を育てる | |
| 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> ① 公開授業を実施する。 ② 学校教育活動に地域等のボランティアと PTA の支援を積極的に活用して、学力向上や学習の充実、さらには部活動の充実などに取り組む。 ③ 学校の小規模化に伴い、他校との交流など、教育の充実のための学校運営のあり方を検討する。 ④ 小中一貫教育推進を積極的に行う。 ⑤ 学校協議会では、学校が保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力し、一体となって生徒たちの健やかな成長を図るために、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組む。 |
| 取 組 | <ul style="list-style-type: none"> ① 今年度も、コロナ対応のため、保護者の来校を制限して学校運営を行った。4月の授業参観・6月の合唱発表会は中止とし、体育大会は、午前中で見学者数を制限した。コロナが少し落ち着いた10月末に公開授業の実施ができ、多くの保護者にお越しいただいた。また、12月10日のSEの公開授業では、コロナ禍で参加は少なめであったが、遠くは八尾市や熊取町などからも教員や教育委員会指導主事の参観をいただいた。 ② 今年度は、3密を回避する観点で、生徒の活動場所を制限し、地域の方にお世話になる行事はほとんど中止とした。しかし、2年生の職場体験学習に代わり、地域の事業所の方数名にお越しいただき、生徒にお話をしていただくなど、形を変えるなどの工夫をして学習を進めた。クラブ活動も、対外試合が例年通りには実施できず、保護者の観覧もできない大会が多かった。地域のボランティアの方に中庭の花植えを手伝っていただいたり、学校敷地内の草刈りをお願いしたりなど、地域の方に協力いただける場面ではお願いした。また「ふれあいのつどい」は今年度も実施できなかったが、それにかわる「ふれあい作品」の取り組みを、福祉団体等と行えたのは有意義であった。 ③ 生徒数の減少に伴い、クラブ数が減少してきているとともに、1クラブの部員数も減少している。そのため、活動の仕方も工夫しながら、生徒が達成感を持てるように取り組んでいる。吹奏楽部においては、地域での演奏会を中心に活動してきたが、今年度も、演奏のようすをビデオ録画し、クリスマスに保育所子どもたちにプレゼントをして視聴してもらった。今年度も、個人で参加できる水泳については、中学校体育連盟等の大会に出場ができるよう学校として対応した。 ④ 小中一貫教育の推進については、今年度も町教委主催の小中一貫教育推進会議へ担当者が毎回参加した。今年度は、教委主催で学校運営協議会準備委員会が設定され、定期的に会合がもたれ、熟議等で西地区の義務教育学校の開校に向けた熱心な話し合いがされた。 ⑤ 学校協議会を開催し、学校の情報を伝え、ご意見を頂いた。また、10月には学校協議会委員とPTA役員による生徒会役員との懇談会を実施し、直接、生徒会役員へアドバイスをいただくことができた。 |
| 評 価 | <p>○生徒の評価 ※ (H31年度、R2年度、R3年度) の肯定(A)評価の割合 「学校行事はみんなが楽しく、そしてがんばって取り組めるようになっている」(67.5% 71.4% 68.0%)であった。少し昨年度よりは下がったが、コロナ禍で行事等を縮小せざるを得なかった今年度も、概ね高い評価であった。今年度も合唱発表会は中止とした。体育大会は、3密とまらない競技を中心に半日開催で実施した。修学旅行、宿泊学習、校外学習等は、日程、行き先や実施方法などコロナ対応を考慮して変更し、生徒が十分に活動できるように工夫して実施した。どの行事も、実行委員形式で生徒自身が運営していくように取り組んだ。また、学年のつどい(スポーツ交流などお楽しみ会)なども実施し、できる限りの生徒同士の触れ合いの場を設定した。クラブ活動においても、大会の中止や活動時間の制限等もある中、生徒による自主的な活動となるように取り組んだ。</p> <p>○保護者の評価 「学校は合唱発表会、体育大会などの学校・学年行事等に生徒が前向きに取り組むよう指導している。」(59.7% 59.7% 33.0%)「家庭では子どもとふれあう時間をつくろうとしている」(55.1% 53.7% 59.1%)「家庭では進路について相談することを大切にしている。」(50.8% 51.6% 55.7%)「地域人材の活用に努めている」(46.5% 37.4% 56.3%)であった。 学校行事に関して、保護者の方々の評価は少し厳しいものとなった。今年度も昨年度同様の行事の実</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>施、ならびに実施内容であったが、さすがに2年連続の中止（合唱発表会）や参加制限などで、保護者の方の評価も厳しめになったのではと思われる。</p> <p>ただ、家庭での子どもとのふれあいの時間は大切に考えてくださっている保護者の方が多いようで、たいへんうれしく感じている。保護者の方が前向きに子どもたちと接して下さっている土壌があるだけに、家庭との連携には今後も注力し、学校での課題等も保護者とともに克服できるように積極的に情報発信もしていきたいと考える。また、コロナ禍で地域の方との連携は限られていたが、地域の方々に花壇の整備をしていただいたり、草刈りをしていただいたりしたことを発信していたので、多くの保護者の方々が知ってくださっていることもありがたい。次年度は地域との連携を今まで以上に進めたいと考えている。</p> <p>○総括的</p> <p>今年度コロナの影響で行事の中止や縮小をせざるを得なかったことで、保護者の方々に生徒の頑張りや活躍する場面を実際に見ていただく機会が多く持てなかったのは残念であった。また、生徒自身も持てる力を十分に発揮できずに終わった感もある。「自尊感情の高揚」を今後に向けても大きな本校の課題と位置付けているが、生徒の自尊感情を高めるには、行事等で活躍する場を増やすことは大切である。コロナの影響は当分続くであろうが、感染対策をしっかりと続けながら、創意工夫により生徒の活躍する場を保障していきたい。そして、今回の調査からも、「家庭が支えてくれる」という土壌がしっかりあるという確信を得た。今後は、コロナの状況にも柔軟に対応しながら、より積極的に学校を開き、保護者や地域と連携を深め、そして生徒の「自尊感情の高揚」をめざしたい。</p> |
| <p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p> | <p>○ 生徒一人ひとりの個性を生かしながら、学力や豊かな人間性、健康・体力をバランスよく育む指導・支援に、学校、保護者、地域全体で取り組み開かれた学校作りを進めて頂きたい。</p> <p>○ 家庭や地域との連携をより深めようとしている学校の姿勢が保護者にも肯定的に伝わっていると感じます。日ごろの学習活動は見えにくくても、学校行事や生徒たちの行動は学校外とつながっていることを意識して、吉中生というプライドを持てる生徒が育っていくことを期待します。</p> <p>○ 自主自立を尊重した教育がなされていると感じます。</p> <p>今はコロナ感染防止のため色々な行事の中止や規模の縮小などを余儀なくされている中、工夫を凝らして生徒の意欲を引き出そうとされていることに感謝です。</p> <p>自尊感情の低さは吉中のみならず、諸外国と比べて日本は低いとニュースで報じていました。謙虚さの現れとも考えられますが、人の話をじっくり聴けるとか友だちに優しい配慮をしたとか根気よく努力している等目立たないちょっとしたところに気づいてあげて褒め言葉をかけるなど持続して応援していくことが大事だと思います。</p> <p>○ 小中一貫教育について、学校現場から多くの声を町に届けるよう工夫していただきたい。どうかすると「町教育委員会が考えたことだから」と考えてしまう教職員が多いのではと想像できますが、子ども達のために少しでも学校教育を充実したものにするための大きなチャンスととらえ、現場でのより積極的な行動を期待します。また、小中一貫教育の良さを教職員が実感できるよう、先進校への視察など積極的に行ってほしいと思います。</p> <p>○ 学校の小規模化に伴い、他校との交流などに一人1台のタブレットの利用などを考えてはどうでしょうか。小規模校では、校長先生や教頭先生の特別授業、ゲストティーチャーの授業などを多く取り入れている学校があると思います。また、40人近くの生徒を相手にするのではなく、加配教員が配置されている教科だけでなく、20人くらいの生徒に分けていろいろな授業を試してみるのもいいのではないのでしょうか。</p> |